

# 進まぬ賃上げ 看護職不足深刻

## 西胆振の地域医療 先細りに危機感



11日、室蘭市内のアパートで看護師の女性が男性患者に手を掛け、血圧と体温を測定していた。「飯は食べていますか」「。傍らの医師は患者の家族に聞いている。医師らは約15分滞在し、手分けして家族全員の話に耳を傾けると、「心配」があれは後でも電話を」と伝えて玄関を出た。

医師、看護師、運転手

### 「地方病院単独の努力は限界」

西胆振で、看護師と、患者の日常生活をサポートする看護補助が不足し、医療現場に支障が出ている。物価高や他業種の賃上げが進む中、看護分野では賃上げや昇任の機会に對し、十分な給与が伴っていないことなどが要因。20日公開の参院選で各政党が待望政策に「なる」支援策を打ち出す中、西胆振の医療従事者は「人材不足が加速すれば地域医療が先細りする」と危機感を訴える。



「い」と表情を曇らせる。同クリニックでは6人いた看護師のうち2人が今春までに退職。月に数回は医師と運転手の2人で訪問診療に対応せざるを得なくなった。看護師専門の求人サイトや募集しても反応はない。佐藤院長は「医師1人では会話する時間が十分に取れない」と嘆く。

#### 「あと10人必要」

看護師不足の悩みは総合病院と同じ。豊後記を室蘭病院（知利町）では常勤医がこの5年間で18人増えたが、看護師、准看護師を含む看護職の総数は3人増で、ほぼ横ばい。高度急性期・急性期医療の機能が同病院に集約し、業務量が増加傾向で、「あと10人は看護師が必要」（前主任洋院長）という。

看護補助の不足も深刻だ。室蘭太平洋病院（日島町）では10年ほど前に約10人の看護補助が働いていたが、現在はベトナム

患者の自宅を訪問し、体調を尋ねる本輪西ファミリークリニックの佐藤院長（左）

ム人の技能実習生6人を含む45人に頼った。日常的に看護師が看護補助の仕事を手を替わっているが、看護師1人1日当たり30分〜1時間ほどの残業が発生している。山内吉子看護部長は「看護師の8割が1人でやれる介護をしている。負担が増えている。職につなげることが一番怖い」と打ち明ける。

#### 都市部と競合も

医療関係者が看護職の人材不足の背景として挙げているのが、待遇の不公平さ。札幌など大規模の良いい都市部との競合。賃金に関する厚生労働省の基本調査によると、看護師の平均月収は24万4千円（約36万円）で全産業の平均とほぼ差がない。賃金引き上げの実態調査では医療福祉業界の賃上げの改定率（同）は2・5%で、4・1%の全産業を下回った。

室蘭では、入学者が減少傾向の市立室蘭看護専門学校と日蘭記念看護学校が統合を検討するなど、人手不足にさらに拍車を掛ける可能性は否めず、「地方の病院単独の努力ではもう限界だ」との声も聞かせる。

室蘭市医師会の山下十志文会長は「仕事にやりがいがあったとしても、他の業種より優位性がないと若者は来ない。国や政治家は地方病院の存続に関わる問題と認識してほしい。看護職員の賃上げ、看護師や看護補助の確保への支援を求めたい」と話す。

（宮本友美子）